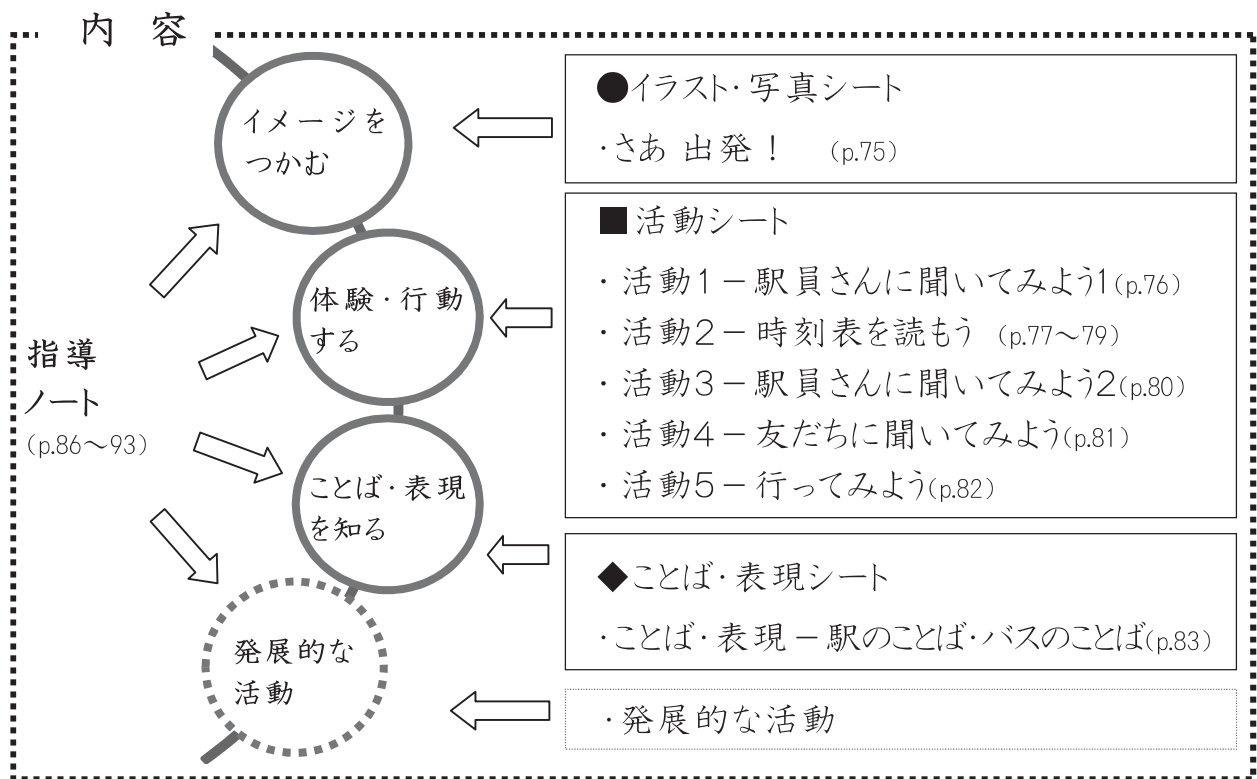


(10) 電車、バス、飛行機、船等を利用する



取り上げる生活上の行為の事例

(1001020)「発車する時刻や掛かる時間を尋ねる」

(1002060)「目的地への行き方を尋ねる」

教室活動の目標

- ・公共の交通機関(電車、バス、飛行機、船等)を利用して、目的地に行くことができるようになる

教室活動のねらい

- ・目的地へ行く交通機関の発車時刻や所要時間を聞くことができる
- ・時間や発車時刻を理解することができる
- ・駅名、行き先などの駅の表示が理解できる
- ・目的地への行き方を質問することができる
- ・目的地への行き方の説明を理解することができる
- ・目的地への行き方を説明することができる
- ・駅名、行き先などの駅の表示が理解できる

指導ノート

取り上げる生活上の行為の事例

(1001020)「発車する時刻や掛かる時間を尋ねる」

(1002060)「目的地への行き方を尋ねる」

- ・ 外国で交通機関を使って初めての場所に行くときは、目的地に着くまで不安なものです。しかし、途中で分からなくなったときに、自分から誰かに尋ね、さらにその先に進んでいけるような力が付けば行動範囲も広がることでしょう。できるだけ学習者の生活圏に沿った交通機関を取り上げ、最寄りの交通機関の時刻表や路線図なども用意して、学習者と一緒に出かけるつもりでスタートしてみませんか。
- ・ ここでは(1001020)「発車する時刻や掛かる時間を尋ねる」と(1002060)「目的地への行き方を尋ねる」の二つの生活上の行為の事例について、それぞれ教室活動の展開例を示しました。それぞれの生活上の行為の事例は、活動1と2、活動3～5というまとまりに対応していますが、活動1から5まで連続性があり、最後の活動5は全体の仕上げとなっています。

(1001020)「発車する時刻や掛かる時間を尋ねる」

教室活動の目標

- － 公共の交通機関(電車、バス、飛行機、船等)を利用して、目的地に行くことができるようになる。

教室活動のねらい

- － 目的地へ行く交通機関の発車時刻や所要時間を聞くことができる。(活動1)
- － 時間や発車時刻を理解することができる。(活動1)
- － 駅名、行き先などの駅の表示が理解できる。(活動2)

活動前に確認しておくこと

- － 学習者の生活圏における交通機関の状況
- － 時刻表や路線図の入手方法に関する情報

準備する素材

- － 学習者の生活圏における交通機関の案内図・路線図
- － 時刻表(駅やバス案内所に置いてあるもの, インターネットでダウンロードできるもの等)
- － 乗り物の写真・絵が掲載されている本

教室活動の展開の説明

イメージをつかむ

●イラスト・写真シート

・さあ 出発！(p.75)

- ・ 「イラスト・写真シート」(p.75)の(A)を見せて、写真がどんな場所か、またどこに行くときに、このような場所に行ったかなど話してもらいます。学習者にどこかに行ったときの思い出を話してもらい、それを教室活動の参加者の間で共有することから始めると、楽しくスタートできるかもしれません。また写真にあるような電光掲示板に書いてあることや、電車のホームは「～番線」で示されることなども、ここで確認しておきましょう。ここでは電車とバスを取り上げています。

< 問いかけ例 >

「ここ(A)はどこでしょう。この(電光掲示板の)下には何があるでしょうか。」

「これには何が書いてありますか。」

「あなたがよく使う乗り物は何ですか。どこからどこまで乗りますか。」

「時間はどのくらいかかりますか。」

「電車やバスに乗るとき、分からないことがありましたか。そのときどうしましたか。」

- ・ 日本語が分からないゼロ初級の学習者には、ここで覚えてほしい「駅」「改札口」「時刻」など基本的な単語を提示しながら質問の簡単な答えを引き出し、ここで何を勉強するか理解してもらいましょう。「(場所)から(場所)まで」「(～時間／～分)かかる」などの表現は、日常的に出てくるので、ここで使えるようにしておくといでしょう。
- ・ 少し話せる学習者であれば、日本と自国との違い(発着時刻の正確さ、ホームでの電車の待ち方)などを話してもらおうとおもしろいかもしれません。最後に、乗った

い電車が分からなかったときどうしたか、自分ならどうするか、など話し合ってみましょう。外国に行かれた支援者の方々の体験談なども交えて進めると発話が活発になるかもしれません。

体験・行動する

■活動シート

・活動1－駅員さんに聞いてみよう1(p.76)

- ・「会話例」では、発車時刻、何番線か、目的地までどのくらい時間がかかるかを聞く基本パターンが示してあります。「何時に出ますか」「何番線ですか」「どのくらいかかりますか」の表現が聞きたいときにすぐ出てくると便利です。ここでは上記三つの情報が盛り込んでありますが、ゼロ初級の学習者には、一つずつ別々に聞くやり取りで練習してみましょう。
- ・発話練習では学習者に「Aさん」の役を演じてもらい、はじめは指導者または支援者が駅員になって、繰り返しやり取りを行ってください。その際、会話例から少し離れた表現も盛り込みながら受け答えを行うと、実際の場面で戸惑うことが少なくなるかもしれません。慣れてきたら、学習者同士ペアで練習してみるとよいでしょう。

体験・行動する

■活動シート

・活動2－時刻表を読もう(p.77～79)

- ・国によっては、時刻表の見方に馴染みのない学習者もいることでしょう。ここに示した時刻表を見ながら読みとり方を理解してもらいます。
- ・「始発」「最終」「終点」「～分おき」「～時台」は交通機関を利用するときによく使われることばです。ここではその意味が理解できるようにしておきましょう。活動シートにある質問のほかにも、この時刻表を見ながら、自由に質問をしてみてください。
- ・電車の駅やバスの案内所で、小型の時刻表がもらえます。地域の列車やバスの時刻表を人数分用意しておき、それを使って上記のような質問をしてみてください。実際の情報を扱うことで、生活に役立ち、学習意欲も増すのではないのでしょうか。

多言語情報例

例1)文化庁『日本語学習・生活ハンドブック』

p.73「交通機関～乗りこなして行動範囲を広げよう～」

(1002060)「目的地への行き方を尋ねる」

教室活動の目標

- －公共の交通機関(電車, バス, 飛行機, 船等)を利用して, 目的地に行くことができるようになる。

教室活動のねらい

- －目的地への行き方を質問することができる。(活動3, 活動4)
- －目的地への行き方の説明を理解することができる。(活動3, 活動4)
- －目的地への行き方を説明することができる。(活動4, 活動5)
- －駅名, 行き先などの駅の表示が理解できる。(活動5)

活動前に確認しておくこと

- －学習者の生活圏における交通機関の状況
- －時刻表や路線図の入手方法に関する情報

準備する素材

- －学習者の生活圏における交通機関の案内図・路線図
- －時刻表(駅やバス案内所に置いてあるもの, インターネットでダウンロードできるもの等)
- －身近な交通機関で用いるICカード(Suica, ICOCA 等), 回数券等

イメージをつかむ

●イラスト・写真

・さあ 出発! (p.75)

- ・「イラスト・写真シート」(p.75)の(B)を見せて, 男性が駅員さんに何を聞いているのか推測してもらいましょう。「路線図」が示してあるので行き方を聞いているのですが, 正解を当てることよりも, 自由に発話してもらうことを意識するとよいでしょう。ここで「路線図」「乗車券」「券売機」などのことばも提示しておくといよいでしょう。身近な

交通機関の路線図を用意し、路線図の見方についても確認しておいてください。同時に、切符の買い方やカード乗車券(Suica,ICOCA 等)の使い方を確認したり、説明したりしておくといでしょう。また、「～で電車(バス)を降りる」「～で電車(バス)に乗る」「～で乗りかえる」などの言い方にここで慣れてもらいます。

・最寄りの駅から指導者や支援者の自宅までの経路、あるいは学習者に有用な場所までの経路を例にとって示すといでしょう。「～で～線に乗る」「～で～線に乗って～で乗りかえる」などの言い方もよく使われるので、レベルに応じて練習してください。初心者も聞いて理解できるようにしておくといでしょう。

< 問いかけ例 >

「男の人は何を話していますか。考えてみましょう。」

→ 答えの例 「～はどうやっていきますか。」 「きっぷを落としました。」

「～までどのくらいかかりますか。」など。

「あなたの職場や友だちの家はどこにありますか。電車やバスで行きますか。どこ(駅の名前)で電車(バス)に乗りますか。」

「どこで電車を降りますか。」

「乗り換えがありますか。どこで、何に乗り換えますか。」

「駅やバス停で、駅員さんや運転手さんに何か聞いたことがありますか。」

体験・行動する

■ 活動シート

・活動3－駅員さんに聞いてみよう2(p.80)

・< 会話例 >では基本的に、「目的地への行き方を質問することができる」「目的地への行き方の説明を理解することができる」ことを目的としています。生活圏内の交通機関に置き換えて、練習してみるといでしょう。学習者の日本語レベルに応じて、表現は適宜変えてください。

・< 発話練習 >では、始めにAさん役を学習者、駅員役を指導者が担当し、路線図を示して、学習者に視覚的に経路を確認してもらいながらやり取りしてはどうでしょうか。駅員の発話は必ずしもこのパターンだけではなく、少しずつ変えて聞かせるのもいいでしょう。初心者ではない学習者の場合は、駅員役にチャレンジしてもらってもいいかもしれません。「～で電車を降りる」「～で電車に乗る」「～で乗りかえる」の表現がスムーズに出てくるようになれば、話題が広がります。

- ・ 路線図は、実際の路線図を拡大したもののほかに、学習者によっては、ローマ字表記も添えた路線図を作成しておくとう理解しやすいでしょう。
- ・ インターネットからダウンロードしたり、乗り物が描かれている絵本からプラットホームの写真を拡大コピーして貼ったり、駅のホームのざわめきを録音しておいて流したりなど場面をできるだけ再現すると、楽しくできるのではないのでしょうか。

体験・行動する

■ 活動シート

・ 活動4－友だちに聞いてみよう(p.81)

- ・ 目的地の行き方が自由に尋ねられると、それだけ行動範囲が広がります。ここでは身近な話題として、友だちの家や友だちの職場までの行き方、行ってみたいところが聞けるようになることを目的としています。指導者、または支援者とやり取りをして正しく発話できているか確認しておくといいでしょう。そのあとで、複数の友だちとやり取りをしたり、ペアワークを行うなどして練習してください。
- ・ 初心者の場合は聞く側のAさん役をしてもらい、相手の言うことが理解できるようになればいいでしょう。やはりここでも路線図があると理解の助けになります。
- ・ 余力のある学習者には、たとえば「友だちにおすすめの場所を聞いて、行き方を尋ねてください。」のようなタスクを課し、短い会話にチャレンジしてもらうのも一案です。
- ・ 学習者に実際に行ってみたいところを質問してもらいます。例えば「自国の料理の材料が売っている店はどこか、どうやって行ったらいいか」など本当に知りたい情報が求められるかもしれません。初心者の場合、メモは必ずしも日本語で書く必要はありません。生活に有用な情報はどんどん聞いてもらい、吸収していったほしいものです。

体験・行動する

■ 活動シート

・ 活動5－行ってみよう(p.82)

- ・ ここでは、生活圏内の交通機関の主な駅の名前を覚え、自信をもって乗り降りすることができるようになることを目的としています。指導者はあらかじめ、もよりの交通機関(学習者が利用しそうな電車やバスなど)の簡単な路線図を用意しておいてください。学習者が一緒に見られる大きいサイズのものが便利でしょう。

- ・ 学習者から知っている駅名を挙げてもらい、それが路線図のどこにあるか探してもらうことから始めてはどうでしょうか。大きな駅や乗換駅を中心に名前を確認していき、そのほか必要な駅名も漢字を見てわかるようにしておきましょう。また、行き方が何通りかある乗換駅を取り上げ、学習者に、どうやってそこまで行くか、またどうやって行くのが一番早いかなど経路を説明してもらいましょう。私鉄やJR、あるいはバスでそれぞれ値段も違ってくるので、どれが一番安く行けるかも皆で意見交換するとよいでしょう。日本語初心者は、ここで主要な駅名の漢字が分かるようにしておく、安心して乗り降りすることができます。
- ・ それぞれの学習者に、公園やスポーツセンター、安くおいしいレストランなどお勧めの場所を紹介してもらうことで、目的地までの経路を説明する練習になるほか、学習者同士、生活上の有用な情報を共有することができるでしょう。日本語初心者は、ここでは聞いて分かることを目標にするとよいでしょう。

【参考情報】

○鉄道

地下鉄、JR、私鉄など様々な鉄道があります。切符は自動券売機で買ったり、窓口で買ったりします。行き先までの料金は路線図で調べます。小学生は半額、6歳未満の幼児は大人一人につき二人まで無料になります。一日乗車券や定期券など割安な切符もあります。定期券とプリペイドカードの機能をもったICカードを利用することもできます。

○バス

バスには、料金が均一のバスと、乗車距離によって料金が変わるバスがあります。均一料金のバスは、一般的に乗るときに運転席横の料金箱にお金を入れます。乗車距離によって料金が変わるバスでは、乗るときに整理券をとり、降りるときに運賃表で整理券の番号の料金を確認して、料金箱に入れます。バスにも一日乗車券や定期券、プリペイドカードがあります。

自分が降りるバス停がアナウンスされたら、座席近くのボタンを押して降りることを知らせます。

ことば・表現を知る

◆ことば・表現シート

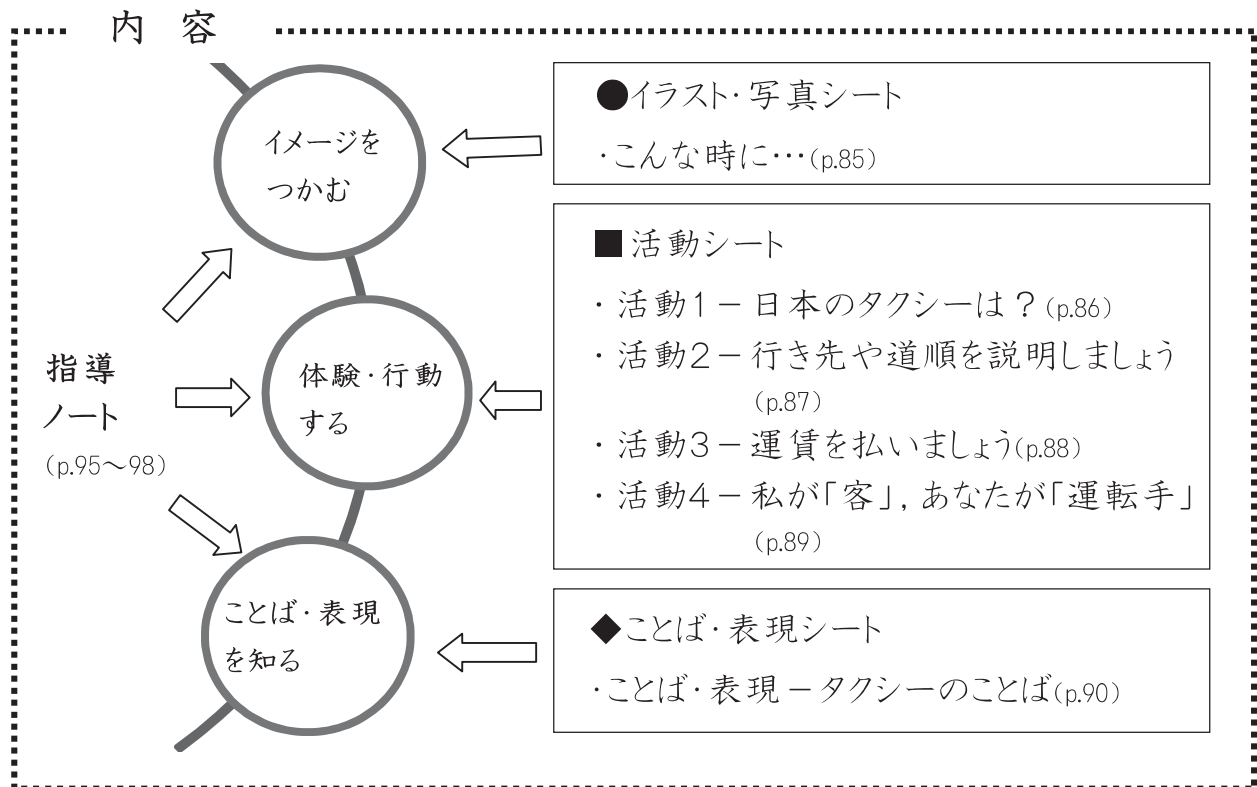
・ことば・表現－駅のことば・バスのことば(p.83)

- ・「①イメージをつかむ」で出てきた単語，あるいはよく使われそうな単語については，「ことば・表現シート」で確認しましょう。また場合に応じて必要な単語を導入してください。
- ・「改札口」や「特急」「急行」「自由席」など，駅や列車では特に漢字を見て意味が分からないと困ることが多いものです。初級者でも漢字を見てすぐ意味が分かるようにしておくといでしょう。
- ・図書館で乗り物の写真絵本など借りてきて，それを見せながら語彙を増やしていくのも楽しいものです。

発展的な活動

- ・車内放送や構内放送を聞き取るのは外国人にとって，なかなか難しいものです。決まり文句も多いので，ポイントだけでも聞き取ればかなり助かることでしょう。学習者の身近な交通機関に実際に指導者が乗って車内放送を録音し，教室でそれを聞かせてポイントを聞き取る練習をしたり，書き起こして穴あき問題を作成し，その部分を聞き取る練習をしたりなど，学習者の日本語レベルによっていろいろ工夫してみてはいかがでしょうか。

た く し ゃ り ょ う (11) タクシーを 利用する



取り上げる生活上の行為の事例

(1101070)「道路でタクシーを止める」

(1102040)「行き先を告げる」

(1103060)「運賃を聞き取り，支払う」

教室活動の目標

・タクシーを利用して目的地に行く

教室活動のねらい

- ・日本のタクシーについて知る
- ・手を挙げてタクシーを止めたり，タクシー乗り場で乗ったりできる
- ・目的地を伝えてそこに行ってもらうよう依頼できる
- ・タクシーメーターの運賃を読み取ることができる
- ・支払いに必要な運転手とのやり取りができる

指導ノート

取り上げる生活上の行為の事例

(1101070)「道路でタクシーを止める」

(1102040)「行き先を告げる」

(1103060)「運賃を聞き取り, 支払う」

教室活動の目標

－タクシーを利用して目的地に行く。

教室活動のねらい

- －日本のタクシーについて知る。(活動1)
 - －手を挙げてタクシーを止めたり, タクシー乗り場で乗ったりできる。(活動2～4)
 - －目的地を伝えてそこに行ってもらよう依頼できる。(活動2～4)
 - －タクシーメーターの運賃を読み取ることができる。(活動2～4)
 - －支払いに必要な運転手とのやりとりができる。(活動2～4)
- ・ 学習者が日本でタクシーを利用するのは少々勇気がいることかもしれません。目的地まで電車やバスでは行きにくいとき, 荷物が多いとき, 急ぐとき, または緊急のときに備えてタクシーを利用できる自信があれば心強いでしょう。
- ・ ここでは, タクシーに代わる自国の乗り物をお互いに紹介し合うことで, タクシーのイメージを学習者に引き寄せ, 同時にお互いの文化の違いを尊重し認め合う活動から入ることを提案しています。自国と比較しながら始めると, 学習に入りやすくなると考えるからです。

教室活動の展開の説明

イメージをつかむ

- イラスト・写真シート
- ・こんな時に…(p.85)

- ・ イラスト・写真シート「こんな時に…」(p.85)を見せて, 日本のタクシーに乗ったこと

があるか、どんなときにタクシーに乗りたいか、など質問(質問例参照)をしながら、学習者が話し合うことから始めてみましょう。

日本の車は左側通行であること、運転席は右ハンドル、ドアは自動で開閉、乗るときは後ろの席に乗り、人数が多くなるときは助手席にも乗るなど、日本のタクシー事情も同時に伝えるといいでしょう。都会では道路を「空車」で走っているタクシーが手を挙げて呼べば利用できること、駅前などに「タクシー乗り場」があること、電話をかけてタクシーを呼ぶことなど、タクシーの利用法も説明が必要でしょう。

そのほか、シートベルトをすること、運賃メーターのこと(初乗り運賃は決まっていますが、あとは一定の距離や経過時間ごとにプラスされることなど)、深夜料金があること、タクシーを呼んだときはその分の料金がかかること、一方、通常サイズのトランクやベビーカー程度の荷物なら別料金はかからないことなども話しておくといでしょう。

< 質問例 >

「日本で、タクシーに乗ったことがありますか。」

「どんなときにタクシーに乗りたいですか。」

「日本でタクシーに乗りたいとき、どうしますか。」

(タクシー乗り場で乗る / 道路で車をひろう→手をあげる)

「あなたの国ではタクシーに乗るときどうしますか。」

「あなたの国のタクシー運賃はどのように決まっていますか。」

「タクシーに乗るとき、何か困ったことがありましたか。」

体験・行動する

■ 活動シート

・活動1ー日本のタクシーは？(p.86)

- ・ 国によって、タクシーに相当するいろいろな乗り物があるようです。ここでは日本のタクシーの利用のしかたに入る前に、自国の(タクシーがわりの)乗り物について紹介しましょう。イラストの質問例も参考にして話し合うことが、自国と日本の違いをお互いの国の事情を理解する手がかりとなるでしょう。
- ・ 日本に来て間もない学習者には、絵を描いてもらったり、その絵を使ってこちらから「大きいですか、小さいですか」「男の人ですか、女の人ですか」など簡単な質問をしたり、「運転手」「ハンドル」などの語彙を提示するなどして参加できるようにするとよいでしょう。

体験・行動する

■活動シート

・活動2－行き先や道順を説明しましょう (p.87)

- ・会話例1「行き先を告げる」(p.87)では、行き先をはっきり言えるようになることが大切です。ここでは学習者の行きたい場所を入れて、「～までお願いします」の言い方を十分に練習してください。
- ・行き先がどうしても通じないときは、あらかじめ紙に書いておいてそれを見せるということも確実な手段です。公の場所ではないところは、住所を書いておくと安心です。
- ・会話例2「目的地まで案内する」(p.87)では、自宅まで帰る場合など、近くの目印になる場所(公共の建物や神社など)も一緒に告げたり、目的地に近くなったときには、「右に曲がってください」「まっすぐ行ってください」などの表現を使って説明できるようにすることを練習します。
- ・応用練習として、道を示した大き目の地図を用意しておき、指導者が目的地に向かって車を地図上で動かし、学習者がその車に乗っていると仮定して、道案内をするのもよい練習になります。(但し、会話例2まで行かうかどうかは、学習者の日本語レベルに応じて判断してください。)

体験・行動する

■活動シート

・活動3－運賃を払いましょう(p.88)

- ・会話例1「運賃を聞き取って払う」(p.88)では、運転手が「〇〇円です」「〇〇円になります」と言うのを聞き取って支払うことを扱います。おつりのあるときのやり取りも、一つのつながりとして扱うといいでしょう。また、客のことは「ありがとう」「お世話さま」「どうも」など簡単なお礼の表現まで扱うのが適切でしょう。
- ・会話例2「運賃メーターを見て支払う」(p.88)では、運賃メーターを取り上げています。実際には、運賃メーターに運賃が表示されるのが普通ですから、運転手のことばの聞き取りに頼らなくても大丈夫です。会話例2は、運転手のことばを待たずに、客が自分で運賃を読み取って支払いを始める場合の例です。おつりのやり取りや最後のお礼などは、会話例1と共通する内容です。

体験・行動する

■活動シート

・活動4－私が「客」、あなたが「運転手」(p.89)

- ・活動3まででは、学習者は「客」の立場での表現を試しました。それを踏まえて、ここでは、学習者が運転手の立場や表現も経験できるようなロールプレイを取り入れてみましょう。
- ・p.89 には、道路でタクシーを止めて乗る一連のロールプレイが示してあります。ここでは実際に動いてやってみてください。
- ・いすを縦に二つ並べてタクシーの運転手と乗客の座席にしてはどうでしょう。運転手役は帽子をかぶって紙皿をハンドルに見立てて運転の動作を行うなどして、できるだけ雰囲気作りをすると楽しくできるでしょう。乗るときの声かけは「お願いします」が一番使いやすいでしょう。このロールプレイでは行き先を告げるだけになっていますが、学習者の日本語レベルに応じて会話例2のような場面も入れるとよいでしょう。運賃を払うのもおもちゃのお金を使用するなどして実際にやり取りをしてみてください。実際のタクシーに臆することなく乗れることを目標として意識していきたいものです。

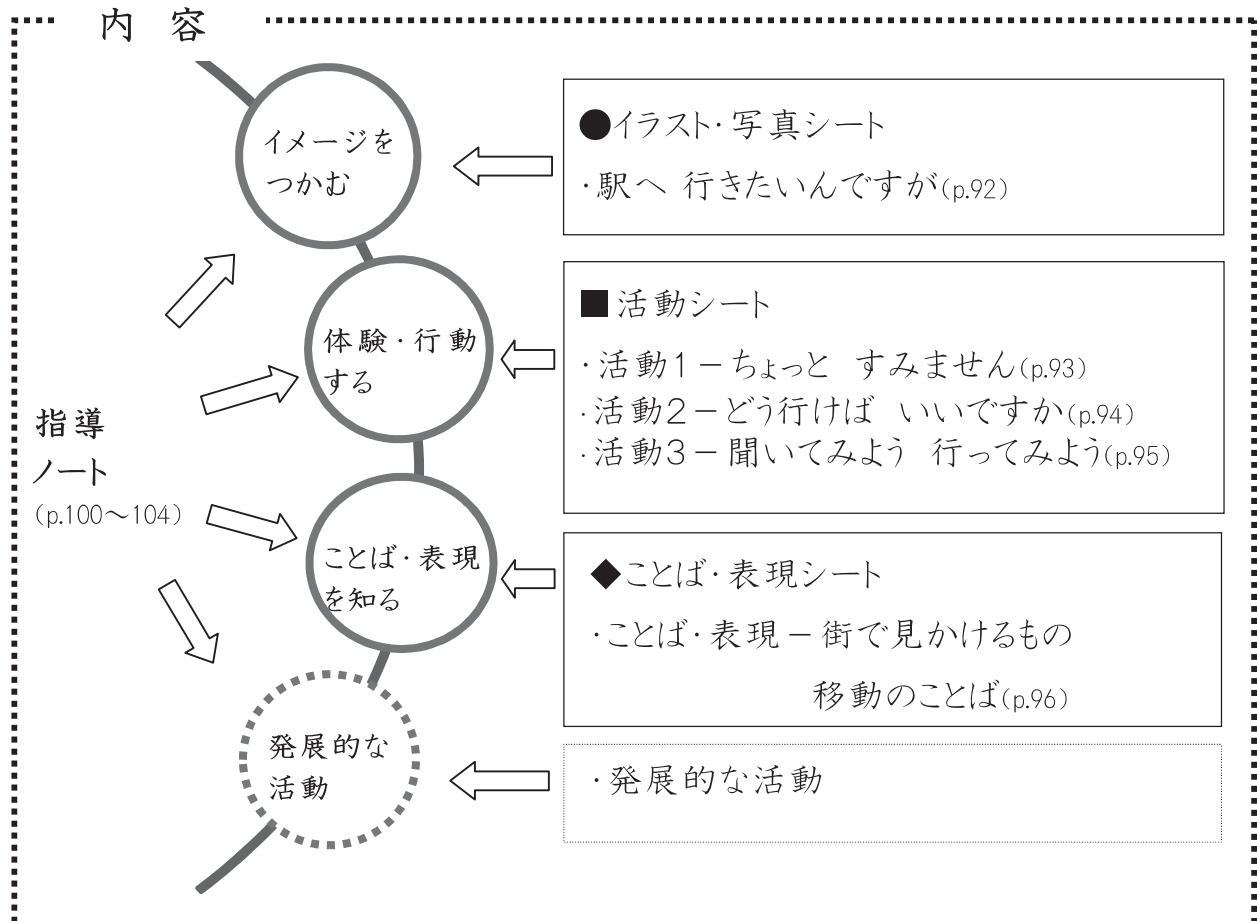
ことば・表現を知る

◆ことば・表現シート

・ことば・表現－タクシーのことば(p.90)

- ・「タクシーに乗る」という生活上の行為で用いられることばや表現は、他に比べてそれほど多くもなく複雑でもないと言えるでしょう。導入で見た「こんな時に…」のイラスト・写真(p.85)や、「活動1－日本のタクシーは？」から「活動4－私が「客」、あなたが「運転手」」までで扱うことばや表現で、基本的な範囲はカバーできると思われます。
- ・p.90 にイラスト・写真を添えて挙げた単語や表現を活動の中で具体的に使う練習やロールプレイを心掛けましょう。
- ・そうした中で留意したいのは、タクシーを利用する際に頻繁に使いそうなことばです。たとえば「〇〇までお願いします」「まっすぐに行ってください」「〇〇(右/左)に曲がってください」「そこで止まってください」などの言い回しや、「信号」「交差点」「シートベルト」「空車」などの単語を取り立てて扱う必要があります。

とほ いどう (12) 徒歩で 移動する



取り上げる生活上の行為の事例

(1204040)「目的地までの道を尋ねる」

教室活動の目標

・分からない場所を人に聞いて目的地に行く

教室活動のねらい

- ・人を呼び止めることができる
- ・目的地までの道を尋ねることができる
- ・説明内容を聞いて理解することができる

指導ノート

・取り上げる生活上の行為の事例

(1204040)「目的地までの道を尋ねる」

教室活動の目標

－分からない場所を人に聞いて目的地に行く。

教室活動のねらい

- －人を呼び止めることができる。(活動1, 活動2, 活動3)
 - －目的地までの道を尋ねることができる。(活動1, 活動2, 活動3)
 - －説明内容を聞いて理解することができる。(活動1, 活動2, 活動3)
- ・ 海外の知らない土地で、目的の場所が分からないのは、とても心細いものです。不自由な日本語で道を聞くのは、少し勇気がいることかもしれません。しかし、失敗は成功のもと、思い切ってやってみれば、意外とうまくいくものです。分からなければ何度でもやってみればよいのです。そのこと自体で学習者の日本語は伸びていくもの。道を聞いて、生きた日本語学習を！そのように学習者の背中を押してみてはいかがでしょうか。

活動前に確認しておくこと

- －日本語教室のある地域あるいは学習者の生活圏内にある店や施設などの位置を調べておく。

準備する素材

- －会話練習で使用するための大きく簡単に書いた町の地図(仮想でよい)
- －授業の展開に応じて、学習場所周辺の簡単な地図の拡大コピーなど
- －学習場所のある地域の店や駅・停留所、施設などの写真

教室活動の展開の説明

イメージをつかむ

●イラスト・写真シート

駅へ行きたいんですが（p.92）

- ・「イラスト・写真シート」(p.92)を見ながら、学習者から出てくることばに耳を傾けてください。「車、信号、ここは〇〇？」など、学習者から出てきたことばを拾いながら、信号、横断歩道、交番などの語彙を確認するとともに、この道路を見ている場所はどこだと思うか（※写真は歩道橋から撮りました）、日本では車はどちら側通行か、皆さんの国ではどうか、などと質問を広げていきます。学習者の日本語レベルに応じて、「はい」、「いいえ」で答えられる形にするなど適宜変えてみてください。

< 問いかけ例 >

「日本で道に迷ったことがありますか。」

「もしあれば、そのとき、どうしましたか。」

「知らない人に話しかけると、何と言いますか。」

- ・さらに指導者が、写真上で歩いていく動きを手で示し、「角を曲がる」、「横断歩道を渡る」「まっすぐ行く」などの表現を、学習者からも引き出しながら、導入、あるいは確認しておきましょう。
- ・道案内の表現を聞いて理解できるようにするため、以下のように実際に学習者に動いて体で覚えてもらう方法もあります。

< 例 >

- ・広いスペースに、新聞紙を敷いて、角や交差点を含んだ道を作ります。
- ・指導者または支援者が「次の角を左に曲がってください。」「まっすぐ行って二つ目の角を右に曲がってください。」など指示を出し、学習者は新聞紙上をその通りに動いて、体感します。

体験・行動する

■活動シート

・活動1ーちょっとすみません (p.93)

- ・ 会話例1(p.93)は、道を尋ねるときの基本的なやり取りを示しています。ここで、切り出し方、尋ね方、お礼のことばが発話できるようにしておきましょう。尋ねる言い方は、いろいろありますが、学習者が一番覚えやすく発話しやすい形でまず練習してください。ここでは相手の説明を聞いて理解できることを目指します。大きく簡単に書いた街の地図(病院、学校、郵便局など目印になるポイントもいくつか入れて)を用意し、始めはそれを示して、学習者に目で確認してもらいながら、説明をいろいろと変えて、やり取りをするとよいでしょう。
- ・ 会話例2(p.93)は、聞き返して確認する場面が入っています。分からなかったり、よく聞こえなかったりした場合は、臆することなく聞き返せるようにしたいものです。学習者が聞き取りに慣れてきたら、意図的に聞き取りにくい言葉を入れたり、スピードを速くするなどして、聞き返しの練習ができるように工夫してみてください。

体験・行動する

■活動シート

・活動2ーどう行けば いいですか (p.94)

- ・ Aさん役の学習者に、自分で考えた目的地(学校、図書館、映画館など)を会話に入れて、経路を尋ねてもらいます。相手役の指導者または地域の支援者が、その目的地の位置を、頭の中でアルファベットのどれかに設定して、そこまでの経路を説明します。学習者は目的地を目指して道をたどります。
- ・ 指導者のほか協力者が複数いる場合は、学習者と1対1で、また指導者一人の場合は、学習者の一人にAさん役をしてもらい、学習者それぞれが指導者の説明にそって、目的地にたどり着く、などやり方を工夫してみてください。道順説明がある程度できる学習者がいれば、学習者同士でやり取りしてもよいでしょう。その際は指導者または協力者のフォローが必要かもしれません。但し、ここではあくまで、聞いて分かることを目指します。

体験・行動する

■活動シート

・活動3－聞いてみよう 行ってみよう (p.95)

・ あらかじめ、学習場所周辺の特定の店や施設など(学習者が知らない場所が望ましい)を調べておき、シートの□にその場所名を入れておきます。学習者には、その場所を目的地として尋ねてもらいましょう。指導者または地域の協力者が道順を説明し、学習者はそれをメモしておきます。メモは自国語で構いません。

()には学習者が実際に行きたいところを入れてもらい、同様に尋ねてもらいます。学習者が行きたいところについて指導者、協力者が仮に知らなかったとしても、知っている学習者がいれば、指導者や協力者が学習者同士のやり取りをフォローする形で関われば、学習者同士の情報交換の場になることでしょう。

- ・ その後、実際に町に出て、ここで得た情報を頼りに目的地まで歩いてみます。
- ・ 道順の説明は、人によって経路も表現もさまざまです。時間の余裕のありそうな日本人に、思い切って声をかけて尋ねてみるのも、実地の練習になります。

ことば・表現を知る

◆ことば・表現シート

・ことば・表現－街で見かけるもの 移動のことば (p.96)

- ・ ここでは、家から一歩外に出て街を歩くと目につく交通関連の語彙や生活に欠かせない施設の語彙、移動の表現を取り上げています。道順を説明するときには、目印となる施設や建物の語彙が欠かせません。また道を尋ねる側もこれらの語彙を知らなくては理解できません。ここにあるものはほんのわずかにすぎないので、街中で目につくものはどんどん覚えて自分のものにしてほしいところです。
- ・ 道順説明でよく出てくる「ひとつめ、ふたつめ」「1本目、2本目」などの言い方も紹介しておくといでしょう。
- ・ 学習者と街に出て、移動の表現(「角を曲がる」「交差点をわたる」など)を発話しながら、ことば集めをするのも楽しいものです。

発展的な活動

- ・ ここでは基本的に、道順は聞いて分かるようになることを目標としていますが、余裕があれば、その上の段階として、道順を説明することにもチャレンジしてみましょう

う。

例1) 学習場所周辺の学習者がよく知っていそうな店や施設の写真を提示して、そこまでの経路を説明してもらう。

例2) 自宅の最寄り駅から自宅までの経路を説明してもらう。